

那珂川町図書館

オススの1冊

『世界一美しい人体の教科書』

坂井 建雄／著 筑摩書房 児童書【491 サカ】

皆さんは日頃、どれくらい自分の体のことを意識して過ごしているでしょうか？
毎日元気に動けて、食べて眠れる。当たり前のことのように、特に意識していないかもしれませんが。この本は、人間の体の中で休みなく活動し続けている臓器や器官の働きを詳しくわかりやすく教えてくれています。体のどの位置にどの臓器や器官があるのか自分の体で確認したり、動かしたりしながら読み進めていくと、イメージしやすく面白いです。

「エネルギーを取り込む長く曲がりくねった道（消化器）」「全身をコントロールする情報システム（脳・神経）」などそれぞれの役割によって8章に分かれており、その中で各器官が行っている働きが説明されています。その働きは何一つ無駄なことがなく、形や機能もすべて計算しつくされています。例えば肝臓は、体内の有害物質を分解し、無害な形にする働きを行っています（解毒）。重要な仕事を担っているので、四分の三を切除されても、生命を維持でき、数か月後には、肝細胞が増殖して元の大きさに戻るほど再生能力が高い臓器だそうです。他にも、胃の中身が腐らないのはなぜ？シャックリが起きるのは、胎児期の名残？スイカに塩をかけると甘く感じるのはなぜ？わかっているようで上手く説明出来ない事柄も読むとスッキリ納得できます。

そして、この本の見どころは、何ととっても鮮やかな写真です。臓器の内部を光学顕微鏡や走査顕微鏡をはじめとする最新鋭の技術で撮影したとされる写真は、まるで海の中の生物を見ているような気分させられます。何十種類もの生物があちこちに生存しているかのような写真が見られるのですが、これらはすべて私たち人間の体の中にある細胞が集まってできた組織なのです。（組織は染色や着色されており、実際の組織の色ではないそうです。）

こうしてみると、人間はいかに精密で繊細に作られているかが実感できます。著者は「自分がいかに大切にかけがえのない存在であり、家族や友人たちも尊い存在であることに気づかされるでしょう。」と言っています。体の中で様々な臓器や器官が正常に動き続けているおかげで生きている。自分が今、生きているということに感謝したいと思える一冊です。この本は、児童書のコーナーにありますので、お気軽に手に取って楽しんでいただきたいと思います。

那珂川町図書館（パンダ）